

あなたの足、ボコボコしていませんか？

下肢静脈瘤

足の血管がボコボコ目立つ、青紫色の細かい血管がクモの巣の様に広がっている……それは静脈瘤という病気かもしれません。

心臓血管外科 主任部長

井上 信幸

日本心臓血管外科学会専門医
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医、指導医



Q 下肢静脈瘤とはどんな病気？

皮膚のすぐ下に見えている血管は「静脈」と呼ばれる血液を心臓に戻す血管で、「下肢静脈瘤」は老廃物を含んだ血液が足の静脈に滞ることで様々な症状が出る病気です。血管が目立つくらい……と何年も放置しがちですが、放っておくと「かゆみ」、「痛み」、「むくみ」、「こむら返り(足のつり)」を生じ、ひどくなると「皮膚の黒ずみ」や血栓による炎症から「潰瘍(えぐれ)」にまで至ります。静脈瘤の種類は上部写真のようにいろいろあります。

Q どんな人がなりやすい？

下肢静脈瘤は遺伝が関係するとも言われ、血縁者が持っている場合、高い確率で発症します。

- 長時間の立ち仕事
- 妊娠出産
- コルセットやガードルでの締め付け
- 骨盤内の術後の癒着

など静脈の流れを滞らせることも発症のリスクとなります。

Q どんな治療法がある？

基本の治療は「弾性ストッキング」という圧力の強い靴下の着用です。症状をやわらげる効果がありますが、着用が大変で、根本的な治療を希望する方には手術療法があります。

手術療法とは、滞った足の表面の静脈を様々な方法で処置します。具体的には小さく皮膚を切開し静脈を切除する方法、または「レーザーが出る細いカテーテルを血管内に挿入し、静脈壁を焼灼して塞ぐ方法」です。

また、青紫色の細かい血管に対しては注射で薬を注入し治療する「硬化療法」もあります。

Q 何科を受診したらいい？

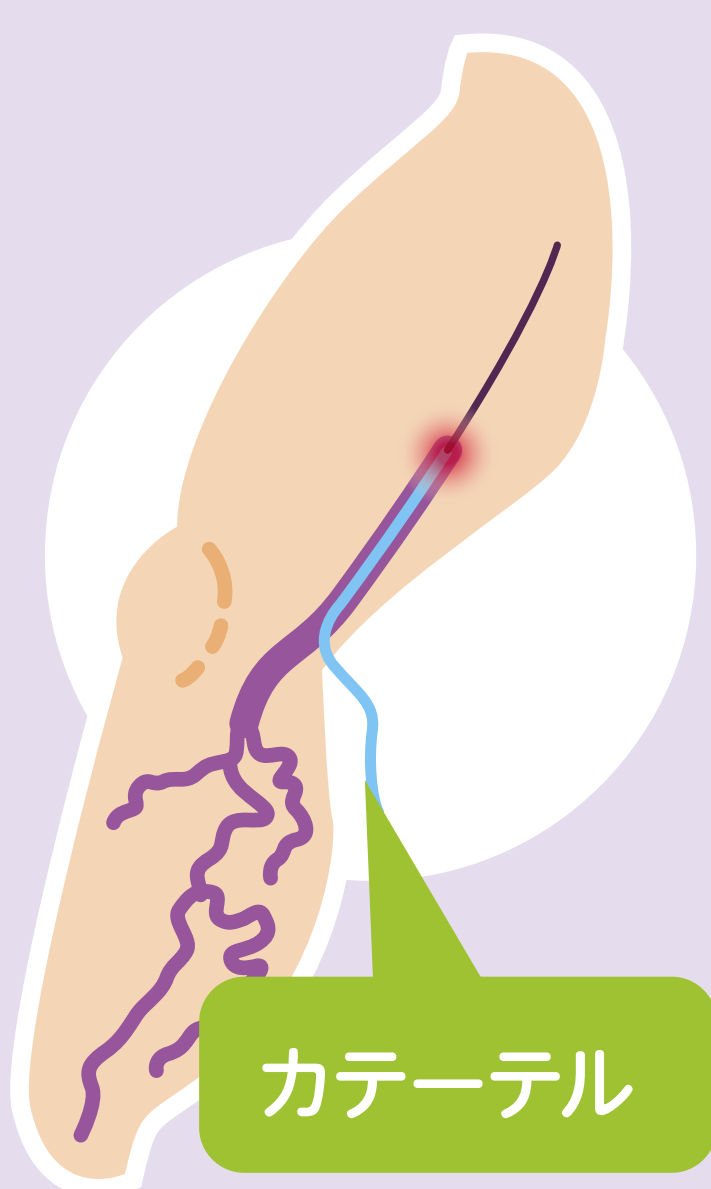
はっきりと静脈が浮き出ている場合には、下肢静脈瘤の可能性が高いため「心臓血管外科」を受診してください。

むくみが主な症状である場合には他の疾患からの可能性も十分にあるため、一般内科や総合診療科を受診し、原因を調べることをおすすめします。

Q レーザー治療とは？

エコーで静脈の位置を確認し、刺した針から極細いカテーテルを進めます。先端から出るレーザーで血管の内壁を熱し、血管を閉鎖します。手術は基本的に全身麻酔で行い、レーザー処置をする周囲に局所麻酔を併用します。既存の治療に比べ、合併症が少なく傷が残りません。大きな静脈瘤がある場合は5mm程度の皮膚切開を追加し、取り除きます。

手術当日は包帯で圧迫しますが、翌日から通常の生活や仕事が可能で、術後ほとんどの方が症状が軽快したと話されます。下肢静脈瘤は身近な病気です。普段は気にしない、膝の裏側やふくらはぎをチェックしてみませんか？



カテーテル

下肢静脈瘤で困っている女性の患者さんは多く、日々診察しています。実際、女性の方が男性より2倍多く、実は私もそのうちの1人です。ぜひご相談ください。

心臓血管外科 医長

大友有理恵

下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医

